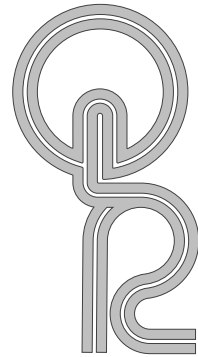


# 第四紀通信

Vol. 5 No. 3, 1998



ギリシア・コリント湾東部，Heraion の完新世隆起ノッチ群．最高位のノッチが海抜約 3.2 m の高度にある．解説 (p. 16) と会議案内 (p. 14) 参照．撮影：奥村晃史．

Vol. 5 No. 3		May 31, 1998	
日本第四紀学 1998 年大会第 3 報	2	日産学術研究助成について	13
INQUA-XV (南アフリカ)	5	IGCP-367 例会 (ギリシア) 案内	14
国際シンポジウムの案内 (国内)		幹事会議事録	15
GLOCOPH-'98	11	研究員公募 (工業技術院)	15
The Ryukyu Islands	12	会員消息	16

## 日本第四紀学会 1998 年大会 - 総会・研究発表会 (第 3 報)

### 1. 日程

- 1998 年 8 月 26 日 (水) 一般研究発表, 評議員会  
8 月 27 日 (木) 一般研究発表, 総会, (終了後懇親会)  
8 月 28 日 (金) シンポジウム  
8 月 29 日 (土) 巡検, 普及講演会

### 2. 会場

神奈川県立生命の星・地球博物館  
〒250 - 0031 小田原市入生田 499  
小田原駅から箱根登山鉄道 (箱根湯本行または強羅行) に乗り,  
入生田 (いりうだ) 駅 (所要時間約 10 分) で下車. 徒歩 3 分.  
車での来館は, 駐車場が工事中のためご遠慮下さい.

### 3. 事務局

〒250 - 0031 小田原市入生田 499  
神奈川県立生命の星・地球博物館  
日本第四紀学会 1998 年大会準備委員会  
大会準備委員長: 濱田隆士  
連絡先: 松島義章, 平田大二  
TEL 0465-21-1515

### 4. シンポジウム (神奈川県立生命の星・地球博物館と共催)

テーマ名: 「相模湾周辺の地震・火山とテクトニクス」  
世話人: 山崎晴雄 (都立大)・太田陽子 (専修大)・松島義章 (生命の星・地球博物館)  
日 時: 1998 年 8 月 28 日 (金) 9:30 ~ 17:00  
場 所: 神奈川県立生命の星・地球博物館  
シンポジウム趣旨

相模湾を含む南関東~伊豆北部地域は, プレーートの収斂境界が陸上に姿を現し, 更にそれが火山フロントと交差するという, 世界の変動帯の中でも極めて特異な地域の一つである. ここでは, 地震・火山活動などさまざまな地殻変動が第四紀において活発に進行しており, これらの現象の実態や活動史を高い精度で観測・復元することが可能である. また, この地域は世界一の大都市東京首都圏の南端部にも当たっており, これらの変動によって引き起こされる災害と関連づけて, 地震テクトニクスや最近の地質時代における地殻変動に関して強い関心が寄せられてきた. 兵庫県南部地震以降の全国活断層調査においてもこの地域は真っ先に調査対象となり, 地質調査所や神奈川県による主要活断層の活動履歴調査が行われた.

このような調査成果を背景に 1997 年夏には, 政府の地震調査委員会長期評価部会から国府津・松田断層の評価結果が公表された. そこでは断層の活動履歴調査から将来の運動について一つの見解が示されたが, その背景となるテクトニクスについては必ずしも明快に説明されているわけではない. これまでにも多数の研究者がさまざまな立場から地震テクトニクスに関する議論を展開しているが統一された見解は得られていない. 一方, 関心を持つ研究者や行政, 一般市民からは, 相模湾周辺域における地殻変動とテクトニクスの関係, あるいは予想される地震像などについて具体的に説明してほしいと言う声が少なからず上がっている.

そこで本シンポジウムではそれらの声に応えて, これまでに南関東・相模湾周辺地域で行われてきた地震テクトニクスに関するさまざまな研究を, 現在までに得られたデータに基づいて分かり易く紹介・説明し, これからの研究発展あるいは成果活用の糧とする事を目的に討論を行う.

#### 講演目次 (題名は一部仮題)

- |               |                       |                         |
|---------------|-----------------------|-------------------------|
| 9:30 ~ 9:35   | シンポジウム趣旨説明            | 山崎晴雄 (都立大)              |
| 9:35 ~ 10:15  | 小田原地震と西相模湾断裂・テクトニクス   | 石橋克彦 (神戸大)              |
| 10:15 ~ 10:55 | 相模湾のテクトニクスとマイクロプレート運動 | 小山真人 (静岡大)              |
| 10:55 ~ 11:35 | 国府津・松田断層の活動史とテクトニクス   | 山崎晴雄 (都立大)・水野清秀 (地質調査所) |

- 11:35 ~ 12:00 コメント2件 1.地震関係 棚田俊収(神奈川温地研)  
2.相模湾の海底地形と地質構造 加藤 茂(水路部)
- 12:05 ~ 13:30 昼休み
- 13:30 ~ 14:10 測地学から見た丹沢山地の隆起 多田 堯(国土地理院)
- 14:10 ~ 14:50 三浦半島の活断層 太田陽子(専修大)
- 14:50 ~ 15:30 三浦半島の沖積層から得た古地震・津波データ 藤原 治(動燃)
- 15:30 ~ 16:10 相模湾周辺の沖積層と地殻変動 松島義章(生命の星・地球博)
- 16:10 ~ 16:40 コメント3件  
3.相模湾周辺の沖積層と地殻変動 海津正倫(名古屋大)  
4.完新世段丘と地殻変動 熊木洋太(科学技術庁)  
5.地震考古 上本進二(県立七里が浜高)・上杉陽(都留文大)
- 16:40 ~ 17:00 総合討論

## 5. 巡検

「国府津・松田断層，神縄断層沿いの地域における第四紀層の層序と変動」

日時：1998年8月29日(土曜日)日帰り

集合時間：8月29日8時30分(予定)小田原駅北口(新幹線側)

解散時刻：同日18時(予定)小田原駅北口

(交通渋滞等により遅れる場合があります)

案内者：山崎晴雄(東京都立大)・今永 勇(生命の星・地球博)・

小林 淳(ダイヤコンサルタント)

巡検コース及び概要：小田原発 国府津 曾我山 松田山 山北 駿河小山 御殿場  
乙女峠 仙石原 芦の湯 小田原着

主な観察事項は大磯丘陵の地形と層序，国府津・松田断層，神縄断層の運動，  
足柄層群の層序・構造からみた丹沢山地の隆起，箱根中央火口丘とテフラなど

募集人員：40名(先着順に受け付け定員になり次第締め切ります)

参加費：6,000円(概算)

参加申し込み：参加ご希望の方は葉書又はFaxで下記へお申し込みください  
(電話では受け付けません)。

受付後，個別に詳しい案内等をお送りします。

申込先：〒192-0397 八王子市南大沢1-1 東京都立大学大学院理学研究科地理学教室  
山崎晴雄 Fax：0426-77-2589

## 6. 普及講演会(神奈川県立博物館と共催)

8月29日(土)(講義室)13時30分から15時まで

講師：松田時彦(西南学院大学)

演題：「神奈川県西部の活断層と地震(仮題)」

## 7. 懇親会

箱根ビール蔵(博物館から徒歩約10分)

ビールのみ放題コースで，一般5000円，学生4000円の予定。

## 8. 一般研究発表の申込み

一般研究発表の申込みは，第四紀通信5巻2号に掲載しましたように，  
6月5日に締め切りました。

## 9. 講演予稿集の販売について

講演予稿集の予約販売は致しません。8月26日より，会場受付にて直接販売致します。  
郵送ご希望の方は，大会終了後，第四紀学会事務局(学会事務センター)へ直接申し込ん  
で下さい。

## 10. その他

評議員会は，8月26日の夕方に実施致します。時間，会場等の詳細については，  
学会事務局より各評議員に個別に連絡いたします。

## 1 1 . 宿泊案内

以下の宿泊施設が周辺にあります。各自で直接申し込んで下さい。

### 共済組合関係宿泊施設

組合関係の宿泊施設は料金設定が細かく分かれていますので、予約の際に良く確認して下さい。表示してある宿泊料金は、組合員で1泊2食付きの場合です。また、交通の便もよく確認して下さい。

仙石原付近（箱根湯本から60分：バスのみ）

静山荘	（郵）	0460-4-8065	¥9,600 ~
ひめしゃら	（公）	0460-4-7100	¥9,800 ~

強羅駅付近（入生田駅から45分）

箱根山水	（警）	0460-7-6621	¥7,000 ~
静雲荘	（文）		

宮の下駅付近（入生田駅から30分）

KKR 宮の下	（連）	0460-2-3397	¥11,200 ~
---------	-----	-------------	-----------

大平台駅付近（入生田駅から20分）

大平荘	（地）	0460-2-1101	¥7,700 ~
対岳荘	（私）	0460-2-2094	¥12,200 ~

箱根湯本駅付近（入生田駅から3分）

嶺水苑	（地）	0460-5-5318	¥7,200 ~
函嶺荘	（東）	0460-5-5019	¥8,300 ~
箱根路開雲	（東）	0460-5-6678	¥14,049 ~
青風荘	（連）	0460-5-5124	¥7,100 ~

### 一般宿泊施設

会場への交通が比較的便利な宿のうち、一部をリストアップしました。

箱根湯本駅付近（入生田駅から3分）

注1）和室の施設が多いので、なるべく団体でご予約下さい（3人以上）。

注2）平日と休日の料金設定が異なります。予約時に確認して下さい（表示は平日）

注3）箱根湯本付近の宿泊施設には箱根湯本駅から送迎バスが出ています。

時刻は毎時5分、35分、最終はPM6:30箱根湯本駅発です。利用する施設に停車するか確認して下さい。

湯本富士屋ホテル	0460-5-6111	¥17,000 ~	（1泊2食付）
ホテル南風荘	0460-5-5505	¥13,000 ~	（1泊2食付）
萬寿福（ますふく）	0460-5-5368	¥15,000 ~	（1泊2食付）
ますとみ旅館	0460-5-5775	¥12,000 ~	（1泊2食付）
箱根湯本ホテル	0460-5-8800	¥15,000 ~	（1泊2食付）
彌栄館（やえいかん）	0460-5-5536	¥14,000 ~	
一の湯	0460-5-5331	¥9,800 ~	（1泊2食付）

JR 小田原駅付近（入生田駅から12分）

シングルツイン

ホテルとざん	0465-24-1151	¥6,300	¥11,000
ホテル POSH	0465-22-2155	¥9,702	（ダブルのみ）
ターミナルホテル	0465-23-7733	¥5,000 ~	¥8,000 ~
ハーベストイン小田原	0465-24-5711	¥6,300 ~	¥11,500
ビジネスホテル伊勢	0465-23-2271	¥5,600	¥9,700
ホテルオレンジ	0465-22-6429	¥4,250 ~	¥8,930 ~
ビジネスホテル ISO	0465-22-5689	¥5,500	¥9,000
ビジネスホテルグリーン	0465-22-8880	¥5,300	¥9,800

JR 鴨宮駅付近（入生田駅から20分：小田原駅乗り換え）

鴨宮ステーションホテル	0465-47-0321	¥6,500	¥11,500
ビジネスホテル和幸	0465-49-1200	¥6,500	¥10,200
ホテルドレイク	0465-48-2020	¥6,500	¥11,000

## 国際第四紀研究連合 (INQUA) 第 15 回 (南アフリカ) 大会について

国際第四紀研究連合 (INQUA) 第 15 回大会が 1999 年 8 月 3 日 ~ 11 日に南アフリカのダーバンで開催されます。5 月上旬に配布されたセカンドサーキュラーの概要と、それを補足する重要な事項をご連絡いたします。

### 1. 重要な連絡先

#### 登録・宿泊・巡検・旅行に関して

Conference Secretariat  
Turbo Travel  
P O Box 1065  
Parklands  
Johannesburg  
2121 South Africa  
Tel: +27-11-880-6030  
Fax: +27-11-880-5868  
E-mail: ttravel@iafrica.com

#### 学術的事項と参加補助に関して

Secretary-General  
Dr D Margaret Avery  
INQUA XV Congress  
South African Museum  
P O Box 61  
Cape Town  
8000 South Africa  
Tel: +27-21-243-330  
Fax: +27-21-246-716  
E-mail: mavery@samuseum.ac.za

#### セカンドサーキュラー・文書の請求

Assistant Secretary  
Ms Elzanne Aucamp  
INQUA XV Congress  
PO Box 798  
Silverton  
0127 South Africa  
Tel: +27-12- 841-1167  
Fax: +27-12-841-1221  
E-mail: eaucamp@geoscience.org.za

### 2. セカンドサーキュラーについて

予備登録者には 5 月上旬セカンドサーキュラーが届けられました。予備登録をしてまだ配布されていない方、これから入手したい方は上記 Assistant Secretary へて請求されるか、大会ホームページ [ <http://INQUA.geoscience.org.za/> ] をご覧下さい。大会ホームページにはセカンドサーキュラーの全内容が掲載されており、オンラインでの登録も可能です。また、WordPerfect® 6 / 7 / 8 for Microsoft Windows®用の全文ファイルをダウンロードすることもできます (Macintosh 版の WordPerfect®では読むことができません。ただし Adobe PageMaker® 6.5 for Macintosh にインポートすることは可能です。).

### 3. プログラム委員会メンバー

Prof. Nicholas J. Shackleton (Chairman)  
njs5@cam.ac.uk  
Dr D. Margaret Avery  
mavery@samuseum.ac.za  
Dr Suzanne A.G. Leroy  
s.leroy@qub.ac.uk  
Prof. Timothy C. Partridge  
141tcp@cosmos.wits.ac.za  
Prof. Stephen C. Porter  
scp@u.washington.edu

### 4. 重要な締切日と登録料

- ・第 1 回サーキュラー記載の締切日が大きく変更されています。

1998 年 9 月 30 日

参加費用補助への応募

1999 年 1 月 31 日

- 1) 基準額の登録費全額支払
- 2) 講演要旨提出
- 3) 巡検への経費 20% (払い戻しなし)
- 4) 2 日間の宿泊費支払

1999 年 5 月 31 日

巡検経費および宿泊費全額支払

## (登録料)

---

 参加区分 基準額 / 1999 年 1 月 31 日以降
 

---

Category A Full US\$350 / US\$450

Category B Accompanying  
US\$100 / US\$125Category C Student  
US\$200 / US\$250Category D Institutional and non-attending  
US\$200 / US\$250
 

---

## 5 . プログラムと発表申し込み

[注]プログラムが従来と大幅に変更されます。INQUAのプロジェクトに関連したテーマのみがシンポジウムとして企画され、口頭発表を受け付けます。それ以外のテーマはすべてポスターセッションでの発表となります。詳細についてはプログラムで各セッションのタイトルの下に記載されたコンビーナーにお問い合わせください。なお、ポスターセッションについては下記のテーマに該当しないものも受け入れられます。これから新たにポスターセッションを設けることも可能です。詳細は下記をごらんください。

## SCIENTIFIC CONTRIBUTIONS

You are encouraged to discuss your proposed contribution with the relevant convenors. Please remember, however, that final inclusion in a session depends on acceptance of your submitted abstract by the Organizing Committee and payment of the registration fee.

The Organizing Committee will allocate accepted abstracts to the most appropriate Poster Session. It will help this process if you indicate on the registration form the session for which your abstract is intended.

If your funding depends on an invitation to participate, please contact the convenor of the relevant session in this regard.

Convenors are listed under Provisional Scientific Programme.

## ORAL PRESENTATIONS

Formal oral presentations will be limited to invited contributions in the Theme and other Symposia, and Plenary Lectures. If you wish to have your contribution considered for inclusion in a Symposium, please contact the convenors directly to discuss the possibility of an invitation to contribute. Please note that the number of talks in any symposium is strictly limited, and that some convenors may already have provisionally selected some of their speakers.

## ABSTRACTS

To reduce the number of no-shows, abstracts will not be printed in the abstracts volume and talks will not be scheduled before the registration fee has been received. If you have a genuine difficulty, please consult the Secretary-General. To ensure that a proposed contribution will be made, each participant may normally submit only one abstract. However, those who have been invited to present an oral review paper are encouraged to submit an additional abstract for a poster on results of their own research.

Please note the following points for the preparation of all abstracts:

1. All abstracts must be submitted either on disc or by e-mail, and a hard copy should be mailed.
2. The general format should include the name(s) and address(es) of the author(s) on the top line, the title on the second line, and the text thereafter. The Abstracts Subcommittee will arrange detailed formatting.
3. Abstracts should not exceed 500 words.

*Abstracts must reach the Secretary-General by 31st January 1999.*

## POSTER PRESENTATIONS

Posters will form the principal method of presentation of research results and the majority of participants will make their communications in this way. You are encouraged to contact the convenors of the session in which you wish to participate. The Secretary-General will help identify an appropriate session if necessary.

The Organizing Committee will advise on facilities available at ICC Durban but cannot assist with the preparation of posters. Information about poster preparation will be available on the INQUA Internet Home Page <http://inqua.nlh.no> and printed copies may be requested from Elzanne Aucamp at e-mail [eaucamp.geoscience.org.za](mailto:eaucamp.geoscience.org.za) or fax: +27-12-841-1221. You are welcome to consult the Secretary-General if you have any questions about poster preparation and presentation.

## 6 . 現段階でのプログラム

## PROVISIONAL SCIENTIFIC PROGRAMME

This provisional programme lists the Plenary Sessions and Symposia, with their convenors. Each day is divided into four sessions of 1 1/2 hours duration, two in the morning (AM1 and AM2) and two in the afternoon (PM1 and PM2). Symposia, other than the Theme Symposium, may last for one or two morning sessions, depending on final requirements. Afternoons will comprise Poster Sessions in PM1 and Plenary Lectures in PM2.

*Tuesday, 3rd August 1999*

all day Registration

*Wednesday, 4th August 1999*

AM1 & 2 Opening Ceremony, General Assembly, etc.

PM1 & 2 Plenary Lectures and Presidential Address

*Thursday, 5th August 1999*

all day Theme Symposium:

*The environmental background to hominid evolution in Africa*

Richard Klein [rklein@leland.stanford.edu](mailto:rklein@leland.stanford.edu)

Peter deMenocal [peter@ldgo.columbia.edu](mailto:peter@ldgo.columbia.edu)

*Friday, 6th August 1999*

AM1 & 2

6.1 *Out of Africa*

Lawrence Straus [lstraus@unm.edu](mailto:lstraus@unm.edu)

Ofer Bar-Yosef [obaryos@fas.harvard.edu](mailto:obaryos@fas.harvard.edu)

6.2 *Combining palaeoenvironmental observations and modelling to understand past climate changes within the Palaeoclimate Modelling Intercomparison Project.*

Dominique Jolly [djolly@planteco.lu.se](mailto:djolly@planteco.lu.se)

Stefan Kröpelin [skroe@zedat.fu-berlin.de](mailto:skroe@zedat.fu-berlin.de)

6.3 *Isotope Stage 3 model-data comparisons*

Eric Barron [eric@essc.psu.edu](mailto:eric@essc.psu.edu)

Kurt Lambeck [kurt.lambeck@anu.edu.au](mailto:kurt.lambeck@anu.edu.au)

6.4 *Long Pleistocene records*

Suzanne Leroy [s.leroy@qub.ac.uk](mailto:s.leroy@qub.ac.uk)

Cesare Ravazzi [cnrbg@uninetcom.it](mailto:cnrbg@uninetcom.it)

6.5 *Glacier deforming bed processes*

Jim Rose [j.rose@rhbc.ac.uk](mailto:j.rose@rhbc.ac.uk)

Jane Hart [jhart@soton.ac.uk](mailto:jhart@soton.ac.uk)

6.6 *Quaternary economic deposits*

André du Plessis [mpretor@geoscience.org.za](mailto:mpretor@geoscience.org.za)

Natalia Patyak-Kara

PM1 Poster Sessions and associated Workshops

PM2 Two plenary lectures

*Saturday, 7th August 1999*

AM1 & 2

7.1 *Interactions between arid and humid records of Quaternary change in drylands*

David Thomas D.S.Thomas@sheffield.ac.uk  
Ashok Singvi singhvi@prl.ernet.in

Kathy Kuman 107kath@cosmos.wits.ac.za

7.2 *The Eemian Interglacial: a global perspective*

Thijs van Kolfschoten  
T.van.Kolfschoten@rulpre.leidenuniv.nl  
Karen-Luise Knudsen geomklk@aau.dk

9.3 *Fluvial paleohydrology and global environmental change*

Vic Baker baker@pirl.lpl.arizona.edu  
Peter Zawada pzawada@geoscience.org.za

7.3 *The Pleistocene/Holocene transition in Africa*

Peter Mitchell peter.mitchell@prm.ox.ac.uk  
John Parkington jep@beattie.uct.ac.za

9.4 *Magnitude and frequency in the glacial and glaciofluvial sedimentary record of modern and ancient glaciers*

Andy Russell a.j.russell@keele.ac.uk  
David M. Mickelson  
mickelson@geology.wisc.edu

7.4 *Quaternary river systems: responses to climate change*

Darrel Maddy Dmaddy@chelt.ac.uk  
Jef Vandenberghe vanj@geo.vu.nl  
Pierre Antoine

9.5 *Extent and chronology of glaciation*

Phil Gibbard plg1@cus.cam.ac.uk  
Jürgen Ehlers

7.5 *Quaternary collapsing soils*

Ian Smalley ijs4@le.ac.uk  
Alena Klukanova klukan@guds.sanet.sk  
Dimcho Evstatiev  
geodimo@geology.acad.bg

9.6 *Human impact on sedimentary records*

Rick Battarby rbattarb@geography.ucl.ac.uk  
Leslie Head l.head@uow.edu.au

PM1 Poster Sessions and associated Workshops

PM1 Poster Sessions and associated Workshops

PM2 Two plenary lectures

PM2 Two plenary lectures

*Sunday, 8th August 1999*

*Tuesday, 10th August 1999*

all day Mid-Congress excursions

*Monday, 9th August 1999*

AM1 & 2

M1 & 2

9.1 *Integration of ice core, marine and terrestrial records from the North Atlantic region over Termination 1*

John Lowe j.lowe@rhbc.ac.uk  
Barbara Wohlfarth  
Barbara.Wohlfarth@geol.lu.se

10.1 *Carbon cycle changes: peak glacial versus peak interglacial*

Hugues Faure faure@luminy.univ-mrs.fr  
Jonathan Adams jonathan@elvis.esd.ornl.gov

9.2 *The hominization process in Africa: environmental change and early human evolution between 3 and 1 Ma ago*

Jack Harris jwharris@rci.rutgers.edu

10.2 *Marine, ice and continental records of the last 0.5 Ma*

Chronis Tzedakis pct11@cus.cam.ac.uk  
Ralf Tiedemann rtiedemann@geomar.de

10.3 *Calibration of pollen to climate above the treeline*

Sheila Hicks sheila.hicks@oulu.fi  
Heather Tinsley r.c.tinsley@bristol.ac.uk

10.4 *Ultra-high resolution records of the Late Holocene*



Ed Cook  
(drdendro@lamont.lidgo.columbia.edu)  
Tomasz Goslar  
tomek@fizyk.matfiz.polsl.gliwice.pl.

10.5 *Ice-sheets, crustal movements and seismicity: neotectonics of glaciated and deglaciated terrains*  
Iain Stewart iain.stewart@brunel.ac.uk  
Jeanne Sauber jeanne@steller.gsfc.nasa.gov

10.6 *Paleosol sequences as evidence of long- and short-term climatic cycles*  
Alexander Makeev makeev@fadr.msu.ru  
John Catt john.catt@bbsrc.ac.uk

10.7 *Tephrochronology Commission*  
Valerie Hall v.hall@qub.ac.uk  
Jim Beg tffjebel@aurora.alaska.edu

PM1 Poster Sessions and associated Workshops

PM2 Two Plenary Lectures

Wednesday, 11th August 1999

AM1 & 2  
Plenary Session, including General Assembly

PM1 Proposed debate on human origins

PM2 Closing ceremony

7. 現段階でのポスターセッション

## POSTER SESSIONS

Posters will be displayed for a designated period and will be the subject of a Poster Session, with or without an associated Workshop. Authors will be expected to be available to answer questions during the session at which their poster is presented. Many of the convenors of Poster Sessions envisage a Workshop to discuss material presented. The form of these Workshops will depend on the posters offered, and will be determined after abstracts have been received and accepted.

The organization of individual Poster Sessions and Workshops is open to discussion between the convenors and Scientific Programme Committee. Please remember, however, that Workshops should build on Poster Sessions, not replace them. Convenors of Symposia may also apply for an associated Poster Session to accommodate extra contributions if they wish.

## PROPOSED POSTER SESSIONS

Following is a list of Poster Sessions that have been proposed so far.

Offers to organize further Poster Sessions are invited. Please submit your proposal, containing title and outline, number of likely participants, names of two or three convenors (with e-mail addresses, preferably, or fax numbers) to the Secretary-General.

P1 *Migration of Asiatic (Turanian) arid ecosystems to East and South Africa during the Miocene/Pliocene and the environmental conditions contributing to the evolution of the Hominidae*  
Oleg Kovalev kov@zisp.spb.su  
Sergei Zhilin zhilin@AH1553.spb.edu

P2 *Ice Age glaciation and mountain environments in north and high Asia*  
Matthias Kuhle liturri@gwdg.de  
Mikhail Grosswald mg@grosswald.msk.ru  
Xu Daoming.

P3 *The influence of solar variability on Holocene climate*  
Owen Davis palynolo@geo.arizona.edu  
Bas van Geel vangeel@bio.uva.nl

P4 *Quaternary geology, paleoseismology and seismic hazard for critical facilities such as nuclear power plants*  
Leonello Serva michetti@anpa.it  
Alessandro Michetti michetti@anpa.it

P5 *Holocene history of Mediterranean ecosystems*

Neil Roberts c.n.roberts@lboro.ac.uk  
 Mike Meadows meadows@enviro.uct.ac.za  
 John Dodson johnd@geog.uwa.edu.au

Kevin Hall hall@unbc.edu

P6 *Taphonomy and paleoecology of micromammals in Quaternary archaeological and palaeontological sites*

Holmes Semken holmes-semken@uiowa.edu  
 Christiane Denys denys@cimrs1.mnhn.fr

P14 *Current periglacial research and paleoclimatic reconstruction*

Ian Meiklejohn kim@scientia.up.ac.za  
 Stefan Grab 017grab@cosmos.wits.ac.za

P7 *Impact of tectonics on earth surface processes*

Carlo Bartolini c.bartolini@steno.geo.unifi.it  
 Franck Audemard  
 faudem@funvisis.internet.ve

P15 *Subarctic environmental change in the northern and southern hemispheres*

Chris Caseldine c.j.caseldine@exeter.ac.uk  
 Constantin Kremenetski paleo@glas.apc.org

P8 *Progress in the reconstruction and modelling of southern hemisphere climates since isotope stage 7*

Peter Kershaw  
 peter.kershaw@arts.monash.edu.au  
 Martin Iriondo nririond@alpha.arcruid.edu.ar  
 Tim Partridge 141tcp@cosmos.wits.ac.za

P16 *Climatic change data from karst deposits*

Stein-Erik Lauritzen  
 Stein.Lauritzen@geol.uib.no

P17 *European late Pleistocene isotopic stages 2 and 3: humans, their ecology and cultural adaptations*

Josette Renault-Miskovsky  
 Pierre Vermeersch  
 pierre.vermeersch@geo-kuleuven.ac.be

P9 *Extreme events in the Quaternary record*

Alastair Dawson gex014@coventry.ac.uk  
 Iain Stewart iain.stewart@brunel.ac.uk

SPECIAL EXHIBITION: THE MAP ROOM

P10 *Quaternary and Holocene sedimentary records and their palaeoenvironmental interpretation in Central Africa*

Jürgen Runge arung1@hrz.uni-paderborn.de  
 Daniel Olago pagesnbo@form-net.com

Hugues Faure faure@luminy.univ-mrs.fr and Jonathan Adams jonathan@elvis.esd.ornl.gov have proposed a separate display devoted to maps derived from different databases. For further information please contact the proposers.

P11 *Paleolithic geoarcheology*

Jiri Chlachula JRCH@zlin.vutbr.cz  
 Stanislav Laukhin volgina@glas.apc.org

You are invited to submit maps for inclusion in this exhibition. Please contact the Secretary-General.

P12 *PalaeoFrance: palaeoenvironments and man in France during the Last Glacial Maximum and Holocene Optimum*

Nicole Petit-Maire (fax: +33 4 91 82 62 85)  
 Jean Louis de Beaulieu  
 ms451a04@vmesa12.u-3mrs.fr

\* そのほかお問い合わせがあれば下記にお願いいたします。

P13 *Issues in southern hemisphere permafrost and periglacial research*

Jan Boelhouwers janboel@artso.uwc.ac.za

国内連絡先：

太田陽子

Te1 : 044-911-1290 ( 研究室直通 )

Fax : 044-911-1299

E-mai : QWL03430 @ niftyserve.or.jp

## 第3回地球古水文環境変動 (INQUA/GLOCOPH) 国際会議 -GLOCOPH '98-(第2報)

標記国際会議参加の予備登録をされた方はSecond Circularをご覧のうえ最終登録をお済ませ下さい。予備登録をされていない方の参加も歓迎します。

Second Circular が必要な方は下記の実行委員会事務局までご連絡下さい。

メインテーマ： 過去2万年間の古水文変動・古環境変動 - 湿潤・温帯・変動帯地域を中心に -  
期 間：1998年9月4 - 11日 (8日間)

開催場所：立正大学熊谷キャンパス (熊谷市万吉) 及び日本アルプス山岳地域

主 催：第3回地球古水文環境変動 (INQUA/GLOCOPH) 国際会議実行委員会

共 催：日本第四紀学会・日本学術会議第四紀研究連絡委員会

後 援：日本地理学会・日本地形学連合・東京地学協会・日本陸水学会・日本地下水学会・  
日本水文学会・日本沙漠学会

実行委員会：委員長 - 門村 浩

委 員 - 遠藤邦彦・鹿島 薫・福沢仁之・岩田修二・久保純子・小口 高・小野有五・  
斉藤亨治・島津 弘・田村俊和・米倉伸之

## プログラム：

- 9月3日(木) 参加受付・歓迎レセプション  
ペーパー・ポスターセッションの予定
- 9月4日(金) 1) 古洪水の復元および完新世後期 - 最近の変動とイベント  
2) 最終氷期及び氷期 - 後氷期転換期の変動とイベント
- 9月5日(土) 3) 氷河・周氷河地域  
4) 温帯・熱帯モンスーン気候地域  
5) 乾燥・半乾燥地域
- 9月6日(日) 6) 変動帯 (地殻変動と火山活動の影響)  
7) 広域対比 (大陸内・大陸間)  
8) 方法論, データベース, モデリング, 応用と展望

## 巡検：

- 9月7日(月) 荒川流域日帰り巡検 (参加費無料)  
古洪水イベントの現場証拠と復元手法, 河川管理への応用
- 9月8日(火) - 11日(金)  
日本アルプス山岳地域巡検 (参加費5万円, 別途登録必要)  
現在の地形プロセスと古水文環境変動, 流域環境保全

## 参加登録：

Second Circular に添付の Final Registration and Booking Form に必要事項 (宿泊希望を含む) を記入して下記の実行委員会事務局までお申し込み下さい。

登録料：1998年5月31日以降

一般：25,000円, 同伴者：15,000円, 学生：15,000円

\*送金方法についてはSecond Circular をご覧下さい。

## 連絡先：

〒141-0862 東京都品川区大崎4-2-16  
立正大学文学部地理学教室内  
GLOCOPH '98 実行委員会事務局  
島津 弘

TEL: 03-5487-3272 FAX: 03-5487-3353  
E-Mail: shimazu@ris.ac.jp

INTERNATIONAL SYMPOSIUM *The Ryukyu Islands:  
the arena of adaptive radiation and extinction of island fauna*

国際シンポジウム 『琉球列島（南西諸島） - 島嶼型動物相の適応放散と絶滅の舞台 - 』

開催日：平成 10 年 11 月 5 日（木） - 7 日（土）会場：鹿児島大学稲盛会館

主催：鹿児島大学

後援：日本地質学会，日本第四紀学会，日本古生物学会，日本哺乳類学会

日程：11 月 5 日（木） 受付（午後 1:00-5:00）（受付は 6 日朝でも可）

11 月 6 日（金） シンポジウム（稲盛会館）夕方懇親会予定

11 月 7 日（土） シンポジウム（稲盛会館）

<Post-symposium Excursion>

11 月 8 日（日） 鹿児島（朝） 沖縄 巡検（那覇泊）希望者のみ

11 月 9 日（月） 沖縄 巡検（那覇泊）希望者のみ

### シンポジウムの目的

琉球列島，東南アジアや地中海の島々には，新生代の第四紀更新世前期の低海水準期に，陸橋を經由して大陸から渡来し，島嶼への隔離後，適応放散し，更新世末期に絶滅した陸棲脊椎動物の多くの化石種を産出するほか，現生の固有種が多数生息しており，「種分化の自然の実験室」と言われている．とりわけ琉球列島や地中海の島々におけるシカ類やカメ類化石はその代表的なもので，この中には，種々の島嶼環境に適応した，いくつかのモルフタイプが識別できるが，それらはその様式において平行進化を示し，それぞれが約 1 万年前に一斉絶滅に至っている．このシンポジウムでは，1) 琉球列島の化石陸棲哺乳類の適応放散・絶滅の様式と要因について，地中海や東南アジアの事例と比較することによって，気候や地理的变化等の島嶼の自然環境変化による影響，および人類の移住によるインパクトといった側面から考察するとともに，2) 絶滅を免れたその他の多くの脊椎動物の遺存種が，現在，島嶼においてどのように固有種化しているか，また，それらの保護はどうあるべきか，等を討論し，研鑽を積むことを目的としている．

問い合わせ先・申し込み先：

〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-35 鹿児島大学理学部地球環境科学教室 大塚裕之

Tel: 099-285-8139 Fax: 099-259-4720

e-mail: otsuka@sci.kagoshima-u.ac.jp

シンポジウム参加申込み締切り：平成 10 年 9 月 31 日（7 月 30 日までに申込みの方には，8 月初旬に second circular を発送します）．

巡検参加申込み締切り：平成 10 年 7 月 30 日（人数制限あり）．

### セッションと招待講演者

1. 琉球列島の古地理 木村政昭（琉球大学）
2. 琉球列島の現生陸棲脊椎動物の適応放散  
鈴木 仁（北海道大学），玉手英利（石巻専修大学），本川雅治（京都大学）  
太田英利（琉球大学），伊沢雅子（琉球大学）
3. a) 琉球列島 野原朝秀（琉球大学），大城逸郎（北谷高校），大塚裕之（鹿児島大学）  
b) 琉球列島以外の島嶼域  
John de VOS (National Museum of Natural History, Leiden, Netherlands)  
Ross D.E. MACPHEE (Department of mammalogy, American Museum of Natural History, U.S.A.)  
Fachrael Aziz (Geological Research Development Center, Bandung, Indonesia)  
Joseph A. ALCOVER (Institut Mediterrani d'Estudis Avancats (CSIC), Bareaars, Spain)
4. 島嶼環境と人類の移住  
Paul SONDAAR (University Museum of Utrecht, Netherlands)  
馬場悠男(国立科学博物館)

## 第25回(平成10年度) 日産学術研究助成募集のお知らせ

日産学術研究助成について(財)日産科学振興財団より以下のように募集が行われております。申請書は下記にしたがって(財)日産科学振興財団に請求されるか、同財団のホームページから入手して下さい。総合研究・海外共同研究・ワークショップ助成は申請者から直接応募して下さい。一般研究・奨励研究の応募には日本第四紀学会の推薦が必要ですので、1998年7月31日までに学会庶務事まで申請書類を提出して下さい[庶務幹事：〒192-0397 八王子市南大沢1-1 東京都立大学大学院理学系研究科地理学専攻 山崎晴雄]。

### 総合研究・海外共同研究

#### 研究課題

1. 「人間-自然環境系」に関する研究-人間と自然環境との共存に関する学際的研究を期待する。
  - (a) 再生可能な自然資源の持続的利用と保全に関する研究
  - (b) 生態系の保存と自然復元に関する研究
  - (c) 自然観・自然認識の成立と変遷などに関する実証的研究。
2. 「人間-人工環境系」に関する研究-人工環境と人間生活の関わりを総合的に把握する学際的な研究を期待する。
  - (a) 都市環境の人間生活への影響と総合的管理に関する研究
  - (b) 環境に適応した人工物の創製および再利用に関する研究
  - (c) 科学技術の役割と科学技術観の変遷に関する研究。

#### 助成の要件

##### (総合研究)

- (1) 自然科学だけに限らず人文・社会科学を含む研究者が、密接な連携のもとに課題解決を目指す学際的なグループ研究であることを条件とする。
- (2) 研究期間は原則として2~3年とする。

##### (海外共同研究)

- (1) 主として東南アジアを対象としたフィールドワークによる研究とし、相手国の研究者と十分な事前協議にもとづいた具体的かつ明確な研究であること。
- (2) 代表研究者は日本人であり、研究の方法および成果を相手国に還元することを前提に編成された研究体制であること。
- (3) 研究期間は原則として2年とする。

#### 助成

##### (総合研究)

1件あたり1000万円以内、年5件程度

##### (海外共同研究)

1件あたり500万円以内、年5件程度。

### 一般研究・奨励研究

#### 研究課題

1. 体系的立場からの人間特性に関する基礎研究  
認知、情報処理、行動など人間特性の表現と理解に関して、人間と外部環境を統合した立場からの理工学、人文・社会科学的、学際的アプローチによる基礎研究。
2. 地球表層環境に関する基礎研究  
大気・海洋・地表面で構成されている環境の人為的变化を予測し、防止するため、地球表層部における自然のメカニズムの理解を目的とした基礎研究。
3. 新機能材料の創製、物性・新プロセスに関する基礎研究  
高度な機能を持つ新材料の創出、独創的な物性研究、精密制御を用いるような新プロセスの開発など、材料に関する基礎研究。
4. 生命現象の理解に関する基礎研究  
生物の複雑な構造や機能および種の多様性などに関して、分子レベルだけに限らず、生体高次機能などを含む新しい基礎研究。

#### 助成の要件

##### (一般研究)

- (1) 概ね45歳以下の研究者が主体となって、いくつかの専門領域にわたり、緊密な連携のもとに行われる自主的なグループ研究を条件とする。
- (2) 研究期間は原則として2~3年とする。

##### (奨励研究)

- (1) 若手の研究者(35歳以下-1963年4月2日以降出生)が自ら計画した研究課題を推進する個人研究に助成する。特に、博士号取得後の研究基盤確立の支援となることを重視する。
- (2) 研究期間は原則として1年とする。

#### 助成

##### (一般研究)

1件あたり1000万円以内、年10件程度、

##### (奨励研究)

1件あたり200万円以内、年25件程度。

### 応募の資格・方法

#### 申請資格等

- (1) 申請者は日本の大学など学術研究機関に所属する常勤の研究者(外国人も可)にかぎりません。
- (2) 学術研究費または他の財団の研究助成金などの重複申請は、極力避けて下さい。
- (3) 申請者が営利を目的とした機関に所属している場合は、助成の対象としません。

#### 申請方法

- (1) 総合研究および海外共同研究は、直接当財団助成

係に申請して下さい。締め切り日は1998年8月31日です。

- (2) 一般研究および奨励研究は、第四紀学会庶務幹事 [東京都立大学理学部・山崎晴雄] まで1998年7月31日までに提出して下さい。一般研究は第四紀学会で2件まで、奨励研究は応募されたものすべてを推薦いたします。

### ワークショップ助成

対象研究分野は、自然科学および人文・社会科学の分野を含む新しい研究領域(境界領域)であることが望まれます。

対象とするワークショップは、新しい研究領域の開拓を指向し、助走段階として一定期間内に継続的に実施される小規模の研究集会を対象として助成します。単発的に実施されるシンポジウム、国際学会は対象としません。

募集期間は、研究助成と同様6月1日から8月31日までとします。審査結果は、10月上旬頃に発表し、本年度内に助成します。

### 申請書類の請求

関係書類は、A4用返信用封筒(宛名明記、切手貼

付<1部の場合160円>)を同封の上、研究種別を明記して下記へご請求下さい。日産科学振興財団ホームページ[<http://www.t3.rim.or.jp/~at02-nsj>]から一太郎6で作成し、"winzip"で圧縮した申請書類をダウンロードすることもできます。

### 選考

申請書類の審査は、下記の要件などを勘案して実施します。

- ・当財団の設定した研究課題の趣旨、助成の要件に合致した研究であること。
- ・社会的ないし学術的要請に合致した研究であること。
- ・独創的・先駆的な研究であること。
- ・研究者あるいは研究グループの研究遂行能力が十分に高いものであること。

### 資料請求・問い合わせ先

財団法人 日産科学振興財団  
〒104 東京都中央区銀座 6-17-2  
TEL (03) 3543-5597  
e-mail: at02-nsj@t3.rim.or.jp

IGCP 367 Annual Meeting,  
Corinth and Samos, Greece  
September 10-20, 1998

### *RAPID COASTAL CHANGES IN THE LATE QUATERNARY: PROCESSES, CAUSES, MODELLING, IMPACTS ON COASTAL ZONES*

IGCP 367の最終例会が9月にギリシアで開かれます。参加・発表とも多少受付余裕があるようです。参加されたい方は、至急(遅くとも6月15日までに)IGCP 367 ホームページ <http://www.carleton.ca/~tpatters/greecereg.html> で登録して下さい、ホームページを利用できない方は下記 Stathis Stiros まで氏名・連絡先、Corinth, Samosそれぞれの巡検への参加希望、発表される方は発表を希望する旨と題名をお伝え下さい。会議の詳細は <http://www.carleton.ca/~tpatters/greece.html> をご覧下さい。

The final meeting of IGCP Project 367 will be held jointly with a Conference of the INQUA Shorelines and Neotectonics Commissions in the Corinth area (central Greece), about 100 km from Athens. The meeting will be followed by two field trips in the Corinth area and Samos Island (east Aegean, close to the Turkish coasts).

The Quaternary marine terraces of Corinth, possibly up to 1000m high, the Corinth Canal, the longest (6.2 km) trench in faulted Quaternary and Pliocene sediments, and the seismicity of the area are famous and an attractive subject of study by international scientists. Recent geomorphological, biological and archaeological data indi-

cate that Holocene uplift rates in the Corinth region are among the fastest in the world extensional areas. Evidence can be seen of several coseismic displacements dating from historical times (including the 1981 Earthquake).

Recent studies still unpublished, the results of which will be shown during the meeting for the first time, have revealed that the island is an ideal place to study coastal changes and their seismo-tectonic and archaeological implications.

### Convenors

Stathis Stiros: Institute of Geology and Mineral Exploration (IGME), fax: +301-7752211,  
E-mail: [stiros@prometheus.hol.gr](mailto:stiros@prometheus.hol.gr) and/or:  
Paolo Antonio Pirazzoli: Centre National de la Recherche Scientifique (CNRS), fax: +33-1-45075830, E-mail: [pirazzol@cnrs-bellevue.fr](mailto:pirazzol@cnrs-bellevue.fr)

### Meeting Agenda

- Sept. 10 1998: Arrival and reception. Sept. 11, 12: Scientific meeting. Sept. 13: Business meetings, Corinth field-trip presentation. Sept. 14-15, 16: Field trip, Corinth area. Sept. 16 (afternoon): Transfer to Samos. - Sept. 17-19: Samos field trip. Sept. 20: return to Athens.

### Tentative Costs

Meeting registration/participation: US \$ 100 (students: US \$ 50), Full accommodation during the meeting: US \$ 250, Corinth field trip: US \$ 250, Samos field trip (Athens-Samos-Athens): US \$ 500.

## 1997年日本第四紀学会第6回幹事会 議事録

日 時:

1998年1月24日(土)15:00~18:00

場 所:

東京大学理学部5号館6階地理学教室会議室

出席者:

米倉伸之, 太田陽子, 真野勝友, 松浦秀治,  
小野 昭, 奥村晃史, 斎藤文紀, 中村俊夫,  
辻誠一郎, 山崎晴雄

### 各幹事報告

#### 1. 庶務

- ・平成11年度科研費助成金「学術定期刊行物」の申請を行った。
- ・機関誌財政等検討委員会の日程調整を行い,第1回委員会を1月24日に行った。
- ・学術会議事務局からの学術研究集会等開催予定調査票を記入し返送した。
- ・長期滞納による会誌発送停止者に対して納入督促の文書を送付した。

#### 2. 会計

- ・第四紀露頭集の売上げについて報告,売り上げ伸びない.実績160冊,歴博102冊(六一書房扱い)
- ・36巻3号が予定より薄かったため印刷費支出は昨年よりやや低めになっている。

#### 3. 編集

- ・第3回編集委員会を1/10日に実施。
- ・37巻1号グラ段階,2号受理2編,処理中3編。
- ・査読用英文のformatを作る。次回編集委まで。
- ・37巻1号より編集委員会便りを載せる。
- ・論文の項目(原著・短報・資料などの他)を増やすことを検討中。

- ・特集号(札幌大会)の編集状況報告。8月の総会以前に出版する。

#### 4. 会報

- ・会報4巻6号を発行した。印刷部数2000。
- ・5巻1号を準備中。

#### 5. 渉外

- ・合同大会のお知らせを第四紀通信に掲載。
- ・地球環境科学関連学会協議会第1回協議会が12月22日開催された。16学会が出席。

#### 6. 行事

- ・京都のシンポジウムのテーマ。テクトニクスが小田原,京都と2年続くのは良くないので京都のオーガナイザーに変更を依頼。

#### 7. 企画

- ・10月18,19日青森市の三内丸山遺跡体験学習館での第四紀講習会の報告。学習館の担当者には多大な協力を得た。
- ・2月の評議員会,ミニシンポはお茶の水女子大学で実施。
- ・ミニシンポは第四紀研究の原稿として出版する。

### 論文賞候補者選考委員選挙の結果

- ・会長が分野を併記して指名した11名の選考委員候補者について評議員による投票を行い以下の5名が選出された。

松田時彦(地質学)

小泉武栄(地理学)

大場忠道(地球化学)

小泉 格(古生物学)

赤沢 威(人類学)

### 審議事項

- ・評議員会に提出する資料として,各幹事からの報告事項について審議した。

## 通商産業省工業技術院研究職選考採用者の公募について

募集分野:化学、物理、電子、機械等広範囲な分野で募集

応募資格:

<任期なし>博士課程修了者または見込者(学位取得が可能な者)かつ昭和40年4月2日以降生まれの者

<任期付>博士課程修了者または見込者(学位取得が可能な者)及びこれに相当する者

給与:<任期なし>博士課程修了後ただちに採用された場合は258,800円の基本額と諸手当

<任期付>博士課程修了後ただちに採用された場合は341,000円の基本額と諸手当

提出書類:

履歴書、学部・修士・博士それぞれの修了及び成績証明書、修士及び博士論文の要約、

研究業績の要約2~3点等

公募〆切:平成10年7月31日(必着)

選考方法:提出書類等をもとに各研究所で予備審査を行い10月上旬に最終審査を実施して候補者を決定

採用予定日:平成11年4月1日

その他:公務員宿舎あり、土日祝日休み、有給・夏季休暇

募集概要講求先:筑波研究支援総合事務所庶務課人事係

FAX0298-54-2534(電話での問い合わせ不可)